

康友君のこと

ぼくのクラスに望月康友君という男の子がいます。

ヤストモ君と読むのですが、その本当の名前で呼ぶ人は滅多（めった）にいません。みんなコーユー君と呼んでいます。なぜかと言うと、ああ言えば必ず、『こう言う』からです。理屈（りくつ）でコーユー君にかなう人はいません。

「コーユー君。この前貸していた100円早く返してくださいよ。」

「ああ、あれね。返せないよ。」

「返せないって言われても困るよ。なんで返せないんだよ。」

「なんで、返せないかだつて？ お金がないからに決まつてるじゃないか？ だつて君、お金がある人間と、お金がない人間がいたとするよ。その時、お金を借りるのはどちらの人間だと思ukai？」

「そりゃあまあ、お金がない人間だろうね。」

「そうだろう？ お金がないから借りるんだよ。お金があつたら人に頭下げてまでお金なんか借りないよ。そんなの常識だろう？ もちろん頭のいい君のことだ。そんなこと当然知ってるだろうね？」

「えっ、ああもちろんだよ。それぐらいのことは知っているさ。」

「それなら、もう分かるよね。ぼくはお金返せないんだよ。」

「.....」

「ところで、風の便（たよ）りに聞いたんだけど、ツトム君、鉄騎（てつき）伝説PARTツィを手に入れたそうだね。」

「ああ、先週発売になったんだ。デパートで二時間並んで手に入れたよ。」

「あれ今日ぼくに貸してくれないかい？」

「いや、それは駄目だよ。まだぼくも終わってないんだ。あれ、最強の武将モンゴルホークを倒せばプレミア画面が現れるそうなんだ。まだクラスでも誰も見たことない画面なんだ。だからそれまでは駄目だよ。」

「君、こういうことをどう思う？ 君が面白いと思うものは、君だけが面白いと思うんだろうか？ それとも他の誰もが面白いと思うんだろうか？」

「そりゃまあ、ぼくが面白いと思うものは他のみんなも面白いと思うだろうね。」

「そこまで分かるならだよ。ここにみんなが欲しがるものを一人だけ持っている人間がいるとするよ。」

「うん」

「その人間が、そのみんなの欲しがるものを誰にも分けて自分だけで一人占（じ）めするのと、みんなにも分け与えるのとどちらが人間として立派だと思うかい？」

「そりゃまあ、みんなにも分け与える方が立派だよね。」

「そこだよ。君は人間として立派だなあと、ぼくはいつも思っているんだよ。」

「えっ、それほどでもないよ。いやあ、そう面と向ってほめられると照れるなあ。」

「で、鉄騎伝説貸してくれるよね。今日帰りに君んちに寄るからよろしくね。」

「うーん。じゃ、まあなるべく早く返してくれよ。」

コーユー君にかかるといつもこんな風だ。後で後悔（こ
うかい）してももう遅い。しかも今度新学期になって席
替えがあり、よりによってコーユー君の隣に座ることに
なってしまった。どうしたらいいのだろうか？

問 あなたならこれを書いたツトム君に向って

どんなアドバイスをしますか？

あなたのアドバイスを書いてください。